



明善同窓会報

MEIZEN - DÔSÔKAIHO

第62号

発行 明善同窓会
編集 広報委員会
電話 0942-33-6546
FAX 0942-35-1249
meizen@kurume.ktam.or.jp
〒830-0022
久留米市城南町9番地1

明善同窓会 検索

祝・母校140周年 その歴史と群像 未来に連なる明善山脈

明善140周年を迎えました。追隨を許さない伝統と文化は、いかに誕生し継承されたのか。明善の肖像を通して、その歩みをたどります。

明善堂の創設 榊島石梁
明善は、天明3年(1783)両替町の学問所が始まり。学制改革で明善堂、久留米師範学校、県立久留米中学校等と変遷し、戦後、現在の県立明善高等学校となりました。

明善堂の創設 榊島石梁
石梁は、貧困から苦学するも、29歳で藩から奨学金を受け、江戸に遊学します。帰郷し、焼失した藩校を再建。寛政8年(1796)「明善堂」を創建し、後に校長となりました。学派や格式にこだわらず、学問と向き合い、明善精神の礎を築きました。



中学初代校長 梅野多喜蔵
明治12年(1879)、福岡県立久留米中学校を設置。そこから数えて、今年で140年を迎えます。

梅野多喜蔵は、安政5年(1858)、江戸で勝海舟の訓練所に入り、数学・測量航海術などを学びました。勤皇佐幕の内乱の中、文明の新知識を追求。帰郷後は、知識や経験生かし、久留米中学校の初代校長を務めました。



女子生徒第1号 星野房子
房子は、共学前で唯一女子の明善卒業生。早くから「女子も男子同様に学問を修める」大切さを説きました。久留米高等女学校の創設にあたり物心ともに尽力。久留米婦人協会も組織しました。



高女、生みの親 細見保
細見保は、明善堂で学問の素晴らしさに触れ、明治8年(1875)長崎師範学校に進みます。各地で小学校の校長を務め、女子教育の必要性を説きました。教育市長と呼ばれた田中順信久留米市長と共に明治30年(1897)、県下初の久留米市高等女学校を創設しました。



前衛の旗手 古賀春江
「明善美術山脈」と言われるほど、青木繁をはじめ多くの画家を生み出しました。中でも古賀春江は中学明善校時代に絵画への情熱が燃え始め、明治45年(1912)、17歳で上京。本格的に画家を目指し、「埋葬」「二階より」の2作品で二科賞を受けます。

前衛絵画運動が展開した大正後期から昭和初期にかけて、特に際だつた存在であつた。晩年の友人である川端康成も、その芸術性を高く評価したといひます。



明善140周年記念事業 フライトドクター 本村氏を講師に

10月19日に母校体育館で、140周年記念式典と講演会があります(実行委員長は内村同窓会長)。講師には、同窓の本村友一さん(H8卒)。本村さんは佐賀大学を卒業後、フライトドクターとして長年勤務されています。後輩のみなさんの将来に向け、大きな刺激になると確信しています。ほかに記念誌、モニュメント制作、在校生の芸術鑑賞・劇団四季「ライオンキング」を予定しています。

遅咲きの文豪 葉室麟
在学中は新聞部。フクニチ新聞の記者を経て50歳から創作活動に入り、4年後に文壇デビューしました。松本清張賞や直木賞を受賞しても、久留米市に住み続け、歴史時代小説を書き続けました。



母校140周年を迎えて 同窓会 会長 内村直尚

明善同窓会の皆様におかれましては、同窓会の運営にご指導・ご鞭撻をいただきありがとうございますこと、心よりお礼申し上げます。

校舎改築が終わり、新しい中庭には十年前に同窓生の鶴田清二氏が制作・寄贈された彫像、「叡智」(写真)が設置されています。また、



旧校舎の階段の一部がモニュメントとして設置されており同窓生にとりましては大変思い出深く感じます。

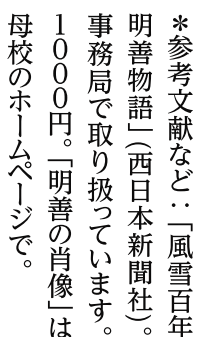
明善高校の校門は明治44年(1911)に作られ笹竜胆の紋章入りの鉄扉も石英の柱も百年以上前の昔の姿そのままです。本校は天明3年(1783)、久留米藩の

学問所として設置されました。令和元年の今年は県立に移管後、140周年を迎えます。母校明善高校も新しい時代へと進んで行きますが、己に打ち克つ、力を尽くす、その結果、楽天の境地に



至る、この「克己・尽力・楽天」の校訓を今後も心に刻み同窓生一同で共有していく所存です。同窓会会長として明善同窓会および明善高校の発展に少しでも寄与出来るよう励んで参りますので至らない点も多々あるうかた存じますが、副会長を始め同窓会役員の皆様、会員の皆様には引き続きご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げます。

音楽に生きた 本間四郎
本間四郎のピアノは天才的で、小学生時代に式典で先生の代わりに弾いていたといひます。中学明善校で、中村八大と合唱団を結成し、本格的に音楽活動を開始。生涯、医者・音楽家として二足のわらじをはき、久留米音協合唱団など稀有な実績を残しました。



ほかに、多くの同窓生が地元をはじめ世界で活躍しています。共通している際立つ個性とひたむきさ。明善堂以来の伝統だと感じます。未来に向け明善、永遠なれ。

*文中、敬称は省略させていただきます。
*参考文献など、「風雪百年明善物語」(西日本新聞社)事務局で取り扱っています。1000円。「明善の肖像」は母校のホームページで。

生まれ変わった母校

9年の工期を経てリニューアル終わる 旧校舎の思い出を残す工夫もあちこちに



① 校舎正面。広々としたエントランス
② 校門、煉瓦塀はそのままに
③ 図書館跡は整然とした駐車場に

平成23年度から24年度にかけて行われた第1期工事では、ロの字の校舎棟のうち北側のA棟が建てられました。続いて、平成25年度から始まった第2期工事で、B棟(理科棟)、続いてC棟(事務室、仮

改築工事は学校全体のうち、中庭をロの字に囲む校舎棟と体育館南側の家庭科棟を建替えるものでした。校舎棟全体は少し北側(グラウンド側)に移動。それでも基本的な配置は変わっていません。体育館、武道場及び最も北の教室棟はそのまま。将来の建替えが期待されます。

平成23年に始まった母校の改築事業が、平成最後の今年3月に、ついに完成しました。校門をくぐるとその全容を見渡せます。工事に当たり仮設の教室は設けず、授業や学校行事を継続しながら、現地で工事を行いました。工程を4期に分割、建築と解体を繰り返し、工期は9年を要しました。完成に当たり、これまでの改築工事を振り返ります。

ロの字レイアウト

建替ローリング

第4期工事は、平成28年度から始まり、体育館南側の家庭科棟跡地に、図書館や食堂などが入るE棟工事は平成29年度に完成。平成30年度は、正面玄関前の前庭・駐車場工事、中庭の外構・植栽工事などが行われて、全てが完成しました。

第4期工事は、平成28年度から始まり、体育館南側の家庭科棟跡地に、図書館や食堂などが入るE棟工事は平成29年度に完成。平成30年度は、正面玄関前の前庭・駐車場工事、中庭の外構・植栽工事などが行われて、全てが完成しました。

校長室及び正面玄関が建てられました。平成26年度から平成27年度にかけて行われた第3期工事ではD棟(校長室、保健室及び職員室)が建てられ、旧校舎と同様のロの字の配置が完成しました。



生まれ変わった中庭



校訓の碑もそのまま

旧校舎の名残りも

施設・設備は一新された一方で、正門からの風景は、校舎を囲む赤れんがや前庭の枝ぶりの良い大松も以前のままだ。また正門横には、中学明善時代からの校訓「克己、尽力、楽天」を刻んだ石碑が年月を経た風格を漂わせています。



落ち着いた図書館



集会用のコモンホール



中庭につながるアーチ



昔の階段はモニュメントに



第52回 明善大同窓会

2019年10月12日(土) 14:30開会

会費 6,000円 会場 ホテルマリターレ創世久留米

当番期 明善59会

第52回大同窓会の開催に向けて

産みの苦しきも楽しみながら…

10月12日(土)14時30分開会
ホテルマリタール創世久留米

代議員総会開催 全ての議案は 可決成立

実行委員長 田中久雄(S59卒)

明善同窓生の皆さま、こんにちは。今年度の幹事は、私たちが59会が務めさせていたいただきます。どうぞよろしくお願

令和最初の代議員総会を、6月22日に高校の大会議室で開催。決算・予算などの議案の審議を行いました。

今年度予算総額は1千164万3713円で、例年並みの予算規模となりました。今年度は明善140周年に当たり、記念事業に150万円の負担を予定しています。具体的には在校生の芸術鑑賞や校名板の制作に充てられます。校舎のリニューアルに際し伐採したクスノキを、校名板に再利用する計画です。

第51回明善大同窓会報告

あらしの大同窓会を終えて

第51回実行委員長 兵頭充紀(S58卒)

昨年大同窓会における「当番幹事委嘱状伝達式」後のご挨拶でも触れましたが、今年10月、母校は創立140周年を迎えます。また12月には、久留米高女での「久留米初の『第九』披露」から100年になるそうです。さらに5月には「令和」と改元

3年前の夏に準備組織を立ち上げ、大同窓会開催に向けた様々な課題に取り組みできました。お集まりいただく同窓生の皆さまに「懐かしい友と再会できて楽しかった」「元気になった」「明善生でよかった」と感じていただくことに加え、59会から



当番学年の皆さんがアピール

提案議案は、全て可決成立しました。代議員の皆さんのご協力に感謝いたします。他に校舎改築の完了、歴史資料館の管理運営規定、大同窓会実施報告がありました。払い戻しはしません。昨年、大同窓会時に台風が接近し、事故などが心配されました。そこで同窓会予算

昨年台風来襲の中の大同窓会でしたが、千名近くもの同窓生にお集まり頂くことができました。どうもありがとうございました。二週続けての週末の台風でしたが、皆様の普段の行いが良かったのでしよう、上手いこと直撃は逃れました。気を揉んでいた前日金曜日、関東在住のS29卒山田先輩からは「台風で来られんごとなつといかんけんもう久留米に来たぞ!」ってお電話がありました。当日も「タクシーは飛ばして来たばい」ってお声掛け頂いた先輩もおられました。

また「絶対行くけん、オイがくつまで待つとけ!」なんて電話まで。明善同窓生恐るべし。その一方で、どうしてもお越しになれなかった方も沢山出てしまいました。なにせ西鉄電車までが止まっちゃいましたから。当日の羽田発の飛行機には離陸したけど引き返した便もあったようで、我々58会の敬子ちゃんのお姉さんは離陸した羽田への着陸となつて涙を流しました。本当に申し訳なく思います。上手くいったりいかなかったり、人生ってこげな

平成30年度決算と令和元年度予算 (単位円)

		30年度		元年度
		予算額	決算額	予算額
一般会計	収入	10,850,000	10,471,407	11,643,713
	支出	10,850,000	7,507,694	11,643,713
	事務局	1,610,000	1,304,288	1,610,000
	総務	660,000	317,543	660,000
	資料館	2,000,000	1,526,981	300,000
	広報	1,930,000	1,947,075	2,050,000
	事業	2,500,000	2,401,007	3,950,000
	財務	50,000	10,800	50,000
特別会計	予備費	2,100,000	0	3,023,713
	基金	121,640,097	121,640,097	121,640,097
	名簿	0	0	0
	期成会	3,213,959	3,213,050	3,213,050
	周年事業	1,500,000	1,500,000	1,500,000
次期繰り越し		2,963,713円		

※基金予算は期首残高を表記しています。

終身会費の納入状況

○平成31年3月卒業生
全日制 314名
定時制 17名
○個人別納入者

- 【S28】豊福剛
- 【S32】豊福英子
- 【S38】白石須磨子
- 【S42】岡本茂樹
- 【S45】正木春彦
- 【S46】井手和子
- 【S50】山口良一
- 【S51】神代律子

調不可思
【S53】岸川弘子

*終身会費は1万8千円。
昭和58年以降の卒業生は在学中に積み立てを行い、全員納入しています。

明善化学部世界に羽ばたく

全国大会最優秀賞から国際大会出場

明善高校は文部科学省から、長くスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けています。化学部の研究が、その優れた力をアピール。国内で数々の賞を受賞し、このほど世界での発表につながりました。

「ついにここまで来た」。抜けるような青空の下、明善化学部の3人が、アメリカの地に降り立ちました。胸中は、晴れ晴れとした思いで二杯だったでしょう。

世界の舞台で堂々と

令和元年5月、明善高校化学部の卒業生・庄山隼斗さんはじめ林田ももこさん、山本真太郎さんはアリゾナ州フェニックスで開催された国際学生科学技術フェア「イ

不思議な現象を発見

栄光の道程の始まりは、



会場で成果を発表。左から山本さん、林田さん、庄山さん

ンテルISEF2019」に出場しました。大会には、世界の高校から1411のプロジェクトが参加し、2日間に亘って英語によるポスターセッションを実施。生化学部門で出場した本校チームは、大舞台で臆することなく研究成果を発表。残念ながら入賞は逃したものの、貴重な経験となりました。

発表したテーマは、「馬鈴薯澱粉の加水分解に伴うヨウ素呈色の特異的色変化」。ジャガイモのヨウ素澱粉反応は、教科書に掲載されているコメなどの一般的な色変化とは異なり、青色の濃淡が周期的に繰り返します。彼らはこの不思議な現象に着目して研究を続けました。着眼点や考察は、審査員から大きな評価を得て、化学部門で最優秀賞を受賞しました。

日本代表になる



大久保勉久留米市長に報告(昨年11月)

次いで、12月に東京で開催された第16回高校生科学技術チャレンジ(JSECC2018)に進出。上位入賞者は、米国で開催される国際学生科学技術フェア日本代表の道が開かれることになっていました。そこで3つ



見事な連覇果たす

第2回明伝戦16対2で伝習館に勝利

令和元年5月29日、久留米市野球場で、明善対伝習館の野球部定期戦「明伝戦」がありました。

藩校にルーツを持ち、創部110年以上の伝統を持つ二校が、野球を通じて郷土愛、母校愛を育んでもらおうと、昨年から開催。当日、両校全校応援で内野ス

ランドは埋め尽くされ、グラウンドの内外で熱い戦いが繰り広げられました。試合は1回裏、伝習館が1点先制。2回表、明善は相手エラーなども絡めて逆転に成功しました。その後も順調に得点を重ね、終わってみれば2本塁打を含む20安打、16-2の猛攻で大勝

です。閉会式で、明善の内田武文校長が「若さという宝物を見せてもらった。その若さを、学校生活に、ぶつけてください」とあいさつ。感動の両校エール交換で幕を閉じました。前年に続き明伝戦2連勝。来年以降も、連勝街道を突き進んでもらいたいですね。

のグランドアワードに次ぐ、特別協賛賞の花王賞を受賞。日本代表の一員に選出されました。

大学に進学した庄山さんは「誰にも知られていなかった現象を高校生が発見したと言っても、偶然そうだったのだろうと取り合ってもらえず、悔しい思いもしました。検証実験を繰り返し、次第に私たちの発表を理解

してもらえるように。国際大会での経験は、将来への自信を与えてくれました。研究者になるといふ夢に向かって、勉学に邁進しています」と語りました。



明善レトロ写真館

昭和初期、筑後川で水泳の練習をする様子。校舎リニューアルに伴い、古い写真がたくさん出てきました。同窓会でお預かりしています。

53会が母校に寄贈 熱中症対策に スプリンクラーなど

今年度中に還暦を迎える昭和53年卒業生たちが、記念に何かをしようと、母校明善への寄付を計画しました。学校と協議の上、グラウンドを広範囲に散水するスプリンクラーと、手元の操作で散水形状を変えられるハンド・スプレーを寄贈することになりました。

学校のグラウンドには水道管が埋め込まれていますが、これまで古いホースにより手動で散水されており、人手と時間がかかっていました。これからは移動型のスプリンクラーなどにより、効率的に散水ができるようになります。グラウンド整備にも、生徒たちの熱中症対策にも効果を発揮することが期待されます。



目録を荒木副校長に手渡す 昭和53年会代表の山本雅典さん

日本酒の講演が好評

第48回東海支部総会

東海支部 下川 博光(S43卒)

第48回東海支部総会を6月8日(土)名古屋国際ホテル「紅梅の間」にて、内村直尚同窓会会長、内田武文明善高校学校長および井上樹彦関東支部会長をご来賓としてお迎えし、開催しました。前日までの雨も止み、晴れの日和であったことは幸いでした。

今回、ご来賓と愛知県在住の3名を含む大同窓会実行委員7名の方々は「紅梅の間」にて、内村直尚同窓会会長、内田武文明善高校学校長および井上樹彦関東支部会長をご来賓としてお迎えし、開催しました。前日までの雨も止み、晴れの日和であったことは幸いでした。



応援の掛け声も高らかに

総会では、内村会長より心強い抱負の言葉を賜り、内田校長からは在校生の「午睡」効果(内村会長のご専門分野)の話題を、そして井上関東支部会長からは放送環境の最新分野に関するお話を伺うことができました。いずれの話題も、参加者一同、大変興味深く拝聴しました。

総会後、地元久留米市内で高級日本酒に特化した精米会社を起業された豊田壽様(S50卒)より「米と日本酒」というテーマで講演頂きました。ユーモアを交えつつ、精米技術開発の経緯を詳しく解説頂き、酒を愛する多くの参加者を大いに魅了しました。

次代を担う学生にスポット

関東支部総会を振り返って

関東支部 宮沢 ひとみ(H3卒)

毎年、新緑の色が鮮やかなこの季節に開催しております。明善同窓会関東支部総会ですが、本年度は元号が「令和」となっております。初めての記念すべき開催となりました。今回の総会では180名近くの方にご参加いただきました。皆様、大変

お忙しい中、総会にご参加いただきありがとうございます。また、総会の準備では幹事をはじめた皆さんの先輩方にご支援いただきました。ここに改めて御礼申し上げます。本年度の総会では、「次世代につなぐ明善聖火」と題し、新しい時代を担う学生にスポットを当て企画したところ、たくさんの学生の皆様に参加していただき、世代を超えた明善生のつながりができたのではないかと思います。私自身、総会準備を通して、たくさんの明善生とのつながりができました。

また、本年度の総会においては、明善同窓会関東支部の新任に井上樹彦様が行われ、瀬戸元会長から本会が引き継がれました。お忙しい中、総会にご参加いただきありがとうございます。また、総会の準備では幹事をはじめた皆さんの先輩方にご支援いただきました。ここに改めて御礼申し上げます。本年度の総会では、「次世代につなぐ明善聖火」と題し、新しい時代を担う学生にスポットを当て企画したところ、たくさんの学生の皆様に参加していただき、世代を超えた明善生のつながりができたのではないかと思います。私自身、総会準備を通して、たくさんの明善生とのつながりができました。

総会後の懇親会では、協賛品の抽選や学生アピールタイムが行われた他、東京オリンピックに向け、スポーツクライミングの代表入りを目指す緒方良行君からのメッセージビデオを上映し、大変盛り上がりました。その後、緒方君は、6月にアメリカ・ヴェイルで行われたボルダリングワールドカップ最終戦で初優勝し、年間世界ランキングで

お知らせ

明善同窓会各支部は、地域ごとに世代や立場を超えて親交を深めています。各支部の連絡先は、同窓会事務局にお尋ねください。

出席者確保に努力を

第47回 近畿支部総会開催

支部会長 板井 浩之(S41卒)

令和時代に入って初の近畿支部総会が、去る6月1日昨年同様大阪新阪急ホテルで開催されました。まず

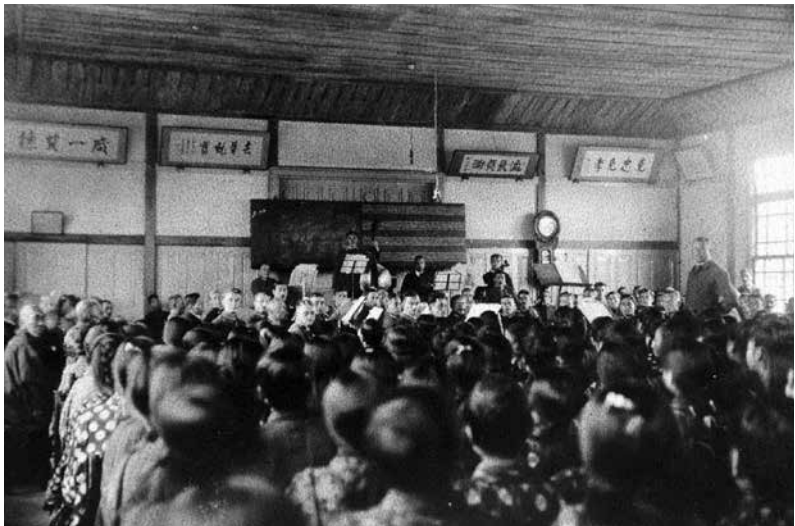
ご報告申しあげたことは、長年会長を務めていた岩橋昭廣さんが、体調不良の為に急遽私板井が会長に就任したことです。当日の出席者数は74名、昨年の77名に比べ年々減少していくのが残念です。母校からは内田武文校長、同窓会から原田孝義副会長が来賓としてご出席いただき、母校の現役生の活躍、同窓会活動のご報告を頂きました。



大盛況の46回総会

福岡明善会 大山 生(S58卒)

6月7日、福岡ソラリアホテルにて第46回福岡明善会総会が同窓生230名の出席のもと、盛会裏に執り行われました。G20開催の前日だったこともあり、市内の混雑が心配されていましたが、特段の支障は無く無事開催となり昨年、大同窓会の当番幹事だった私共は結束が高まった事もあり総勢28名で参加、親交を深めさせて頂いた次第です。



久留米高等女学校での演奏会(大正8年12月)
※当時、捕虜の公式用語は「俘虜」。
本紙は「久留米俘虜収容所」
など固有名詞のみ使用します。

「第九」日本初演100年 高女でドイツ人捕虜の披露から 久留米市制130周年にあたり年末に 久留米シテイプラザで記念演奏会が開催



移り変わる久留米。いろいろな
話題から、ふるさとの今を
お伝えします。

ベートーヴェンの交響曲第九番は、世界平和を願う希望の象徴として永く演奏され、日本でも「第九」として知られています。この名曲が市民の前で初めて披露されたのは、大正8年(1919)12月3日、明善高等学校の前身の久留米高等学校講堂でした。演奏は久留米に収容されていた、ドイツ兵俘虜。初演100年を迎えた今年、久留米市制130周年記念事業として、「久留米第九を歌う会」により第九演奏会が開催されます。

2019年12月28日(土)
15時開演予定
久留米シテイプラザ
ザ・グランドホール
演奏・九州交響楽団
指揮・現田茂夫

日本最大の捕虜収容所

大正3年(1914)、第一次世界大戦が開戦しました。日本は日英同盟を結び、ドイツが拠点としていた中国山東半島の青島要塞を攻略。約4700人のドイツ兵を捕虜にしました。
久留米俘虜収容所は日本

で最初に設置されたもの。当初、梅林寺など4カ所に分かれ、大正4年6月に現在の久留米大学医療センター付近に統合されました。収容数は最多1319人で、日本最大の捕虜収容施設でした。
収容所生活の5年3か月の間、捕虜の人たちは音楽、スポーツ、帰国後に備える学習などで過ごしています。

ゴム産業の発展に貢献

機械技師やゴムの配合の知識を持った捕虜が戦後、市内の企業に採用され、技術指導を行ったこともありました。これらが、久留米のゴム産業の発展に、大きく貢献したともいわれています。

同窓 短信

スポーツ クライミング 緒方さん躍進

今年5月12日、東京・昭島市であったスポーツクライミング・スピード種目の国際大会「スピードスターズ」で、本校卒業の緒方良行さん(写真)が6秒37の日本新記録を樹立しました。



写真提供:JMCA/アフロ

緒方さんは小学生の頃からスポーツクライミングに励み、2015年には世界ユース選手権優勝、2017年ワールドゲームス優勝など、本校在学中から世界を相手にトップクラスの戦績を上げました。

6月のボルダリングワールドカップでも優勝、年間ランキングも自己最高の3位に入りました。スポーツクライミングは東京2020オリンピック競技大会の新種目でもあり今後、緒方さんの活躍が期待されます。

S52 卒原さん 青木展準大賞に

「第6回青木繁記念大賞ピエンナレ」(実行委員会と久留米市主催)で、明善卒業生の原信之さん(S52卒)の作品「咲羅」が準大賞の石橋美術鑑賞に輝きました。



表彰式後に、作品の解説をする原さん(右)。

同展は、新進洋画家の発掘と育成を目的とした全国公募展です。6月29日から7月28日まで、久留米市美術館で開催。全国から応募があった554点のうち、入賞・入選作92点が展示されました。
6月29日に表彰式があり、歴代最年少で大賞受賞の中原未央さん(33、福岡市在住)に続いて原さんが受賞。原さんは「中学校の教師をしながら、絵筆を握り続けて来ました。今回のような素晴らしい賞を頂いて、身の引き締まる思いです」と語りました。

訃報

平成30年9月から令和元年8月までに、次の皆さんのご逝去が確認されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。
(順不同・敬称略)

- [S7] 内田 栄
- [S11] 塚本和子
- [S12] 半田みつ
- [S14] 奥平フクエ
- [S16] 原口敬而 山田久子
- [S17] 松熊繁子
- [S17] 首藤 隆 酒井正人
- [S18] 渡辺千典 久保山昭
- [S19] 吉光敏子 山手澄子
- [S19] 川口 浩 石丸幸造
- [S20] 山本昭三 高山 哲
- [S20] 森 芳子 二田節子
- [S21] 山下ムツエ
- [S21] 中島寿々子
- [S21・22] 豊福武秀
- [S22] 横山多恵子 山本成子
- [S22] 渡辺 京 伊藤蓉子
- [S22] 堤 通子
- [S23] 鹿田和夫 富安秀治
- [S25] 池田辰巳 永利幸雄
- [S25] 真田洋子 塚本 靖
- [S26] 久保通敏 豊福律子
- [S26] 中村元幸 井上 都
- [S26] 坂本弘子 井上 都
- [S27] 角伸志郎 酒井正利
- [S27] 飛永靖則 田中省三
- [S27] 後藤 尚 津留崎英雄
- [S27] 新谷三重子
- [S29] 梶島弘通 江上 康
- [S30] 清水 誠 大川賢治
- [S30] 重松 守
- [S32] 古賀紘夫
- [S33] 三原迪子 平田紀子
- [S33] 西川 章 町田勝将
- [S33] 日比健次 鶴田喜孝
- [S33] 杉山清徳 花田銀子
- [S33] 斎田孝治 高山慶子
- [S33] 秋永朝子 豊福ヒロミ
- [S33] 石井伸幸 大石越夫
- [S34] 松山 泰 松尾伸美
- [S34] 本田高太郎

- [S35] 津福啓二
- [S39] 本村 郁 宮本博海
- [S40] 木下寿博 豊福裕子
- [S42] 境野美喜雄
- [S43] 森田健二 中嶋久男
- [S44] 弟子丸和子
- [S46] 古賀京子
- [S47] 津留崎真理子
- [S48] 馬場由貴子
- [S59] 高野 格
- [S60] 柴田敦子
- [S61] 原 英彰
- [S62] 堺由紀子 高岡弓子
- [S62] 野瀬勝利
- [H3] 毛利真由美
- [H19] 池辺 絢

事務局からのお知らせ
 計報・住所変更などをお知らせください。
 水曜日を除く平日の10時~16時
 〒830-0022 久留米市城南町9番地1
 TEL : 0942-33-6546
 FAX : 0942-35-1249
 E-mail : meizen@kurume.ktarn.or.jp

編集後記

同窓会に係わって、先輩方の話を聞いた後輩達の頑張っている姿を見たりと、同窓生っていいものだなーと思う機会を頂きました。
令和へ年号が変わっても、卒業生は高良山に見守られながら沢山巣立っていく事でしょう。今後も明善の歴史は、脈々と繋がるようにと願っております。